

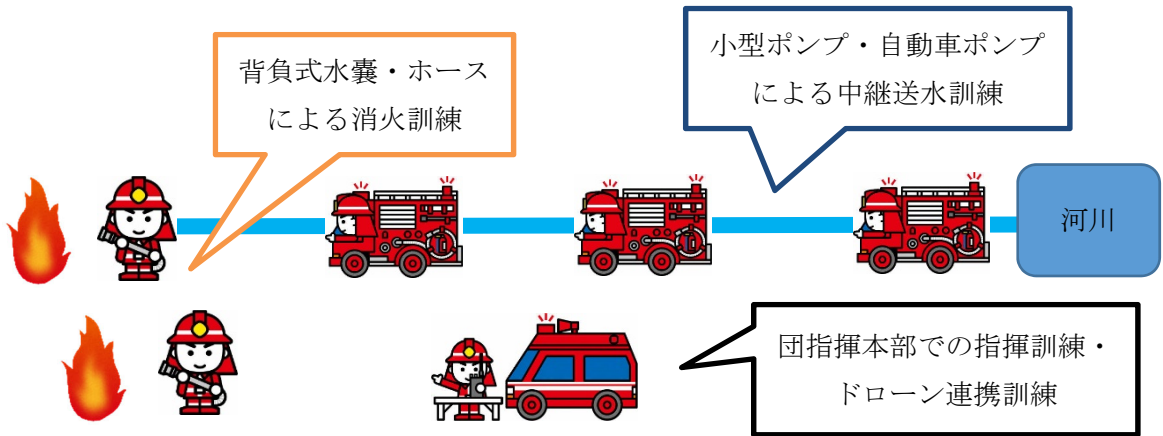
「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

NO.	19	地方公共 団体名	栃木县市貝町	消防団名	市貝町消防団
担当課	総務課 消防交通係		連絡先	Tel 0285-68-1111 Email bousai@town.ichikai.lg.jp	
事業名	DX と連携した林野火災想定訓練				
事業詳細	<p>○ 事業の目的・必要性</p> <p>【目的】</p> <p>令和4年3月に町内において林野火災が立て続けに3件発生し、防災ヘリの出動を要請する大規模な火災となった。常備消防（芳賀地区消防本部）は日頃から建物火災に対する訓練を中心に実施していることや、消防団は近年、大規模な林野火災を経験していないことから、常備消防・消防団ともに大規模林野火災への対応能力が乏しいことが露呈した。</p> <p>林野火災においては、延焼範囲や火点の全体像を把握することが困難である。そこで常備消防（芳賀地区消防本部）が保有するドローンを活用し、上空偵察により熱源を探知し、指揮本部と連携することで前線へ効果的な指示を出すことが可能となる。</p> <p>また、林野火災に対処する資機材も不足しており、特に狭隘な林野においてはジェットシューターが有効であるが、数が不足しており、結果的に鎮圧・鎮火までに時間を要してしまった経緯がある。</p> <p>本訓練を実施することで、林野火災に対する団員の対応能力向上及びドローンを活用した常備消防と消防団が連携することにより指揮能力向上を企図する。</p> <p>【必要性】</p> <p>令和3年足利市山林火災をはじめとし、全国各地で林野火災が多発している。平成28年に全国で1,027件だったものが、令和元年に1,391件まで増加しており、ここ数年は林野火災の発生件数が増加傾向にある。当町消防団においては林野火災に対応した訓練を実施したことがなく、林野火災に対する対処方法が不明確となっている。全国的な林野火災の増加傾向と本町消防団の対応能力向上を図るため、本訓練を実施する必要性がある。</p> <p>○ 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業名：林野火災想定訓練・ 実施日：令和4年12月4日（日）8：00～12：00・ 場 所：栃木县市貝町大字市塙1706番地（観音山梅の里）・ 参加者：市貝町消防団 90名 芳賀地区広域行政事務組合消防本部 30名 市貝町総務課（消防団事務局） 3名				

・内 容：林野火災を想定した訓練の実施

中継送水訓練…3つのホースラインを作成し、中継送水訓練を行う。
 消火訓練…管鎗と背負式水嚢を使った消火訓練を行う。
 指揮訓練…本部役員が団員の指揮する訓練を行う。
 ドローン連携訓練…常備消防が保有するドローンとの連携手順を確認する。

・訓練イメージ図



【火点付近における消火訓練】



【団指揮本部でのドローン連携訓練】



○ 目標達成状況

指標	単位	当初目標値	実績値	備考
打ち合わせ	回数	2回	4回	
訓練参加者	人数	100人	120人	
林野火災活動時間	時間	2時間以内	0時間	※令和4年度については、林野火災が発生していないため、作成日時時点で実績無し。

○ 事業成果

林野火災想定訓練終了後、令和4年12月15日（木）に役員や団員、常備消防それぞれが感じた訓練に関する反省点を挙げる反省会を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、事前に反省点の取りまとめを行い、役員・常備消防のみで反省会を実施した。

反省会実施の結果は、下記のとおりで各部より今後の実火災の際に活かせる貴重な反省点や意見が出た。

林野火災想定訓練反省会まとめ

（1）林野火災想定訓練に関する反省点

- ・デジタル無線の感度が悪く、ノイズが多かった。
- ・今回の訓練規模に対して、参加人数が少なすぎると感じた。
→事前の部長会議において、コロナ対策として人数制限をしている旨説明済。
- ・各部間で連携が上手く取れていないように感じた。送水指示が出るより先に送水が開始されており、状況を把握できず混乱した。
→トランシーバー等を使用して、各部間で遠慮なく連絡を取り合ってもらいたい。
- ・ホース展張に時間がかかり過ぎた。
→今後も訓練を実施し、時間短縮に努める。
- ・水利部署として、中継する消防車の圧力計や連成計の数値を連絡して欲しかった。
- ・ジェットシューターの補水場所を明確にして欲しかった。
- ・ウォーターチャージャーを山の麓ではなく、頂上付近に配置しても良かったと思う。
- ・前線がどういう状況なのか分からず、ただ待機しているだけの時間があつた。
→団本部や本団役員に遠慮なく、無線を使用して状況確認の問い合わせをして欲しかった。
- ・事前に部長会議で訓練概要を説明されたが、当日も同様の説明があつても良かった。
→部長会議で一度部長の皆さんに説明しているため、不要では？
- ・事前の説明と違う場所に部署している部や、団長命令よりも先に動き出している部があり、指揮命令系統が混乱しているように感じた。
→実火災の際は命令よりも先に動き出しても問題は無い。
- ・団員のなかには指摘が無いとヘルメット等の防護具を着用しないなど危険な場面もあつた。
車両の駐車方法、無線の取扱い方等をガイドライン化する必要があるのではないか。
- ・今後、無線の取扱い方について、訓練を実施した方が良い。
- ・水圧の単位（キロ・Mpa）の呼称を統一した方が良いのではないか。

(2) その他意見等

- ・ **訓練自体はおおむね良かったのではないか。**
 - ・ 業者（メーカー）から話しを聞いたことは良かった。
 - ・ 各部間でやり取りを行い、送水圧の調整を上手くやっていたところもあった。
 - ・ 訓練の実施時期について、12月は気温が低いので、10月付近が適切か。
 - ・ 林野火災（山林火災）においては防火帯を設定することが重要かと思う。
 - ・ 実火災の際にどのデジタル無線のチャンネルを使うのか予め決める必要があると思う。
- **実火災の際のデジタル無線のチャンネルは「全国共通 F1」を使用する。**
- ・ 今後は、チェーンソー等の資機材の使い方の講習を実施しても良いと思う。
 - ・ 今後も操法大会ではなく、今回のような実践的な訓練を実施してもらいたい。

※黒字…事前に提出して頂いた反省点・意見
赤字…反省会で出た反省点・意見

**その他参考
情報**

※URL の記載などをお願いします。

○ **訓練当日の映像**

・ YouTube チャンネル「とちテレ NEWS」

<https://www.youtube.com/watch?v=BoyUO-0xhmk>